

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフ常陸大宮支援教室		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 5日		～ 令和8年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29人	(回答者数) 22人
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 20日		～ 令和8年 2月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども及び保護者の満足度。	学休日にはイベントや外出活動など子どもたちが楽しみとなる活動を多くしている。またカリキュラムが固定化しないよう、ある程度の基盤を作った上で毎月様々なカリキュラムに取り組んでいる。保護者様には安心してお子様を預けてもらえるよう、日頃からコミュニケーションを取り面談や相談を受けている。	引き続き、子どもたちが安心して利用日を楽しみに通えるようイベントや主体的に参加できるカリキュラムを取り入れていく。また保護者様に対してはどの職員においても的確な対応ができるよう、新しい職員が増えた際には研修やミーティングなどを用いて、職員全体の資質を向上させていく。
2	ホームページやSNS、サービス提供記録の充実さ。	Hugにて当日の子どもたちの様子を、より詳しく書き、写真も毎日貼ることで目で見て子どもたちの様子がわかるよう伝えられている。また定期的に子どもたちの活動の様子をホームページやSNSに掲載することで、日頃の教室内での子ども同士の関わり合いや活動内容について分かりやすく発信している。	サービス提供記録に関しては、より詳しく当日の様子を伝えられるよう、個性を生かした文章表現をしながらも、言い回しや保護者様が見た際にわかりやすい表現・伝え方を職員全体で共有していく。
3	活動プログラムの充実さ。	土曜日(学休日)には必ずイベントとして体験型の外出活動や、季節に合わせた工作・製作を行っている。また月に1回フットサル大会を行い、地域のお子さまを招いてインクルーシブ交流を行うことで、事業所が孤立することなく互いに理解し合える環境作りを行っている。そしてフットサル活動を通して子どもたちの技術面での成長は勿論、協調性を養うことや個々の判断力を養っていけるよう支援を行っている。	3月より新しい活動(酸素ボックス)を取り入れ、当事業所独自の活動を取り入れている。引き続き、当事業所だけの活動及び療育を追求していけるよう、職員全体での資質を向上させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	2階へ上がる階段が急との声がある。	階段の作りとしては建築基準法に基づいた、段差の高さ23cm以下、踏面は15cm以上となっている。しかし子どもや身体障がい者を預かる場として設計した建物ではないため、子どもが使用する際には急と感じる場面がある。	建物設計上、建て替えやバリアフリーにすることは現実的に難しい為、事故へと繋がらないよう引き続き、身体的に支援が必要な児童においては職員一名の配置を徹底する。また、手すりを使用している階段上り下りを行うが日頃から手すりの点検や、少人数での移動を徹底するなど事故防止に努めていく。
2	保護者様同士やきょうだいの交流など、家族と関わる活動が少ないとの声がある。	保護者様が子どもたちの活動を見ることができる機会は設けているが、保護者会などの保護者様同士が関わることのできる機会は設けていない。	今年度においては保護者会を開催することを検討していきたい。またフットサルや、他の活動やイベントも通してきょうだいの交流についても導入していきたい。
3			